

令和元年5月12日現在

機関番号：30107

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K02927

研究課題名(和文) 英文読解に社会環境的要因はどのように影響するか：生態学的アプローチの視座から

研究課題名(英文) Socioenvironmental Factors Affecting EFL Reading in Japan: A Consideration of the Ecological Systems Approach

研究代表者

松本 広幸 (Matsumoto, Hiroyuki)

北海学園大学・経済学部・教授

研究者番号：00549404

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：第二言語読解研究において、学習者個人の動機づけ・学習観・方略使用の関係性については報告が見られるが、家庭や学校などの社会環境的要因との関係性については研究が進んでいない。本研究では、これらの第二言語読解の個人差要因について家庭・学校・地域社会・社会通念との関係から考察した。研究方法の面では、量的・質的アプローチの併用による数値的・言語的データの比較対照を通して、第二言語としての英文読解の動機づけ・学習観・方略使用に社会環境的要因がどのように影響するかを分析した。結果の概要として、社会環境的要因は第二言語読解の個人差要因に影響を与え、中でも社会通念が動機づけに与える影響が大きいことがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、社会環境的要因のどの階層レベル(家庭・学校・地域社会・社会通念)の影響がどの英文読解要因(動機づけ・学習観・方略使用)に及ぶのか、影響力が大きいのはどの階層レベルか、どの英文読解要因が影響を受けやすいかなど、第二言語読解研究では未だ明らかにされていない領域について研究を行った。本研究の成果により、第二言語読解研究において認知的・情意的要因に社会環境的要因を加えた統合研究の重要性を明確化できたと考える。今後さらなる研究が必要ではあるが、将来的には第二言語読解における認知的・情意的・社会的要因の三位一体モデルの構築が期待される。

研究成果の概要(英文)：This exploratory study investigated EFL reading in Japan as an ecological system in social contexts, focusing on strategy use, motivation, and beliefs. So far, the main theme of L2 reading research has been L2 readers' cognitive and affective aspects, or comprehension processes and motivation. Social contexts of L2 reading have not been included in most studies, if in any at all. In this study, the relationships of students' strategy use, motivation, and beliefs with some socioenvironmental factors were examined using structural equation models and a combination of cluster analysis and ANOVA. Results showed the strong possibility that students' EFL reading as an ecological system is affected in social contexts and that social beliefs are more influential than the other socioenvironmental factors on their motivation to read English. These findings support the validity and necessity of including social contexts in L2 reading research, providing a more comprehensive understanding.

研究分野：第二言語読解・習得

キーワード：第二言語読解 動機づけ 学習観 方略使用 社会環境的要因

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

第二言語読解研究においては、読解プロセスの解明や読解方略の同定など認知的側面を中心に研究が進められてきたが、近年動機づけなどの情意的側面にも焦点が当てられつつある。しかしながら、第二言語読解への社会環境的要因の影響については、積極的に研究対象と見なされてこなかった(Grabe, 2009)。この点に関して、第一言語読解研究では、子供の母語での読解行動や発達に認知的・情意的要因だけではなく、社会環境的要因にも影響を受けると考えられている。具体的には、家庭での言語使用環境に関して、特に母親の関与や教育程度が幼児期の言語発達に強い影響を与える(Dieterich, Assel, Swank, Smith, & Landry, 2006)、親の社会経済的地位が読解力を含む認知能力や学習達成度の予測要因となる(Fletcher & Reese, 2005)などの報告がある。また、第二言語習得研究でも、学習者と言語使用環境との相互作用が言語発達プロセスにおける重要要因と考えられている(Lightbown & Spada, 2013)。これらの研究成果の第二言語読解研究への援用可能性について、読解プロセス(第一言語・第二言語)や領域(読解研究・習得研究)の差異が正確な理解を妨げる可能性がある(Wigfield, 1997)。すなわち、第二言語での読解行動や発達に対して社会環境的要因が及ぼす影響についての研究は、当該分野の重要かつ喫緊の研究課題である。

このような経緯から、本研究課題では、第二言語読解の個人差要因(動機づけ・学習観・方略使用)について、社会環境的要因(家庭・学校・地域社会・社会通念)との関係から考察した。第二言語読解の個人差要因に関しては、「英文読解に成功する学習者像を求めて: 動機づけ、学習観、方略の統合的視座から」(JSPS 科研費 22520619)ならびに「方略的介入は動機づけや学習観になぜ影響するのか: 第二言語読解の成功感と自律から」(JSPS 科研費 25370693)の研究成果を基盤とした。結果を要約すると、これらの要因間の因果プロセスの特徴として、1) 要旨理解を中心とする方略の定着による読解意欲の向上、2) 要旨理解の成功を通じた学習者意識の肯定的変化が認められた。

### 2. 研究の目的

第二言語読解研究において、学習者個人の動機づけ・学習観・方略使用の関係性については報告が見られるが、家庭や学校などの社会環境的要因との関係性については研究が進んでいない。本研究の目的は、これらの第二言語読解の個人差要因について家庭・学校・地域社会・社会通念との関係から社会文脈的に考察することであった。本研究では、量的・質的アプローチの併用による数値的・言語的データの比較対照を通して、第二言語としての英文読解の動機づけ・学習観・方略使用に社会環境的要因がどのように影響するかという課題に取り組み、高等教育レベルでの英文読解指導に資する新たな知見獲得や具体的提言を目指した。

### 3. 研究の方法

本研究では、英文読解要因(動機づけ・学習観・方略使用: マイクロシステム)に対して社会環境的要因(家庭・学校・地域社会・社会通念: 上位3システム)がどのように影響を及ぼすかについて考察した。方法論的には、日本人大学生を参加者として英文読解授業を行い、この中で実施する質問紙および面接調査の結果に対して、量的・質的アプローチを併用した多角的・相互的観点から要因間の関係性について総合的に検討した。

社会環境的要因を分析する枠組みとして、生態学的アプローチ(Bronfenbrenner, 1979)を採用した。Bronfenbrenner は、人間発達を社会文脈的に階層構造として理解することを提唱した。具体的には、人間発達を4つの生態学的システム(マイクロシステム・メゾシステム・エクスシステム・マクロシステム)の中で捉え、各システムのレベルで起こる発達が相互作用的に影響を及ぼすと仮定した。この仮説を本研究に適用すると、マイクロシステムとは、学習者が経験する具体的な行動(方略使用)や学習経験の中で形成される動機づけや学習観と考えられる。メゾシステムは、学習者が直接的にかかわり影響を受ける家庭や学校などの環境を指す。エクスシステムは、学習者を積極的な参加者として含まないが、間接的な影響を与えうる地域社会などの環境を指す。マクロシステムは、社会・文化レベルで共有される認識(社会通念など)や対照的な信念体系で、例えば、共通言語としての英語の必要性や早期英語教育の是非などがこれに当たる。

生態学的アプローチを採用することによって、マイクロシステムとしての第二言語読解の諸要因について、社会環境的要因(上位3システム)と統合的に考察した。すなわち、第二言語としての英文読解への家庭や学校をはじめとする多層的な環境の影響を検討した。具体的には、社会環境的要因の各階層レベル(家庭・学校・地域社会・社会通念)の第二言語読解要因(動機づけ・学習観・方略使用)への影響力に違いがあるかどうかを分析した。

第一言語読解研究における社会環境的要因の影響についての先行研究と比較して、第二言語読解に対する社会環境的要因の影響の類似性や独自性について考察した。特に、家庭での言語環境や親の社会経済的地位の影響に関して、第一言語読解と第二言語読解で違いがあるかどうかを検討した。

初年度前期においては、教育学や心理学を含む文献調査を行い、社会環境的要因の学習者への影響に関する先行研究を整理した。併せて、開発済みの英文読解質問紙（動機づけ・学習観・方略使用の3尺度、詳細は Matsumoto, Hiromori, & Nakayama, 2013 参照）の構成概念妥当性の再検討、新たな質問紙（社会環境的要因尺度）の開発を行った。社会環境的要因尺度に関しては、家庭・学校・地域社会・社会通念の4階層レベル（家庭と学校は共にメソシステムに属する）を下位尺度とした。初年度後期においては、本調査に向けて英文読解授業の中で質問紙調査（量的尺度・自由記述）と面接調査を予備的に実施した。

予備調査の結果を踏まえ、次年度では英文読解授業の中で本調査（質問紙・面接調査）を実施した。分析と考察に関しては、量的・質的アプローチを併用した多角的・相互的観点から要因間の関係性を検討した。具体的には、相関、有意差検定、SEM による量的分析を中心に質的分析も取り入れて考察した。

最終年度においては本研究課題の総括を行った。論文1編を執筆して国際学術誌 (Applied Linguistics 等) に投稿したが採択されなかったため、所属大学紀要に掲載した。また本研究の中間的成果を公表する学会発表を含めて、関係する第二言語読解研究のテーマで国際学会において研究発表を行った。

#### 4. 研究成果

第二言語読解研究において、学習者個人の動機づけ・学習観・方略使用の関係性については報告が見られるが、家庭や学校などの社会環境的要因との関係性については研究が進んでいない。本研究では、これらの第二言語読解の個人差要因について家庭・学校・地域社会・社会通念との関係から社会文脈的に考察した。研究方法の面では、量的・質的アプローチの併用による数値的・言語的データの比較対照を通して、第二言語としての英文読解の動機づけ・学習観・方略使用に社会環境的要因がどのように影響するかについて分析した。結果の概要として、社会環境的要因は第二言語読解の個人差要因に影響を及ぼし、中でも社会通念の学習者の英文読解動機づけに及ぼす影響が大きいことが分かった。その他の社会環境的要因も程度の差はあるものの影響を及ぼす要因と考えられる。

第一言語読解研究における社会環境的要因の影響についての先行研究との比較においては、本研究の枠組みでは家庭での言語環境や親の社会経済的地位の影響に関して明確な結論を得ることができなかった。この理由として、質問紙中心の調査では正しい回答を引き出すことに限界があること、さらには回答者自身が家庭での言語環境や親の社会経済的地位について十分に認識していないことがあると推測される。

本研究は第二言語読解研究において、認知的・情意的要因に社会環境的要因を加えた統合的研究の重要性を明らかにした。これまでの第二言語読解研究は認知的要因を中心に進められてきたが、近年においては情意的要因にも焦点が当てられている。これらの研究動向に対して、本研究の成果は社会環境的要因を含む研究視座の必要性・妥当性を提起するものである。今後の研究の展開によっては、第二言語読解における認知的・情意的・社会環境的要因の三位一体モデルの構築が期待できると考える。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

1. Hiroyuki Matsumoto (2019). Is EFL Reading Motivation Different from EFL Learning Motivation in Japan?, 2019 Hawaii International Conference on Education Proceedings, 111-113.

2. Hiroyuki Matsumoto (2018). Socioenvironmental Factors Affecting EFL Reading in Japan: A Consideration of the Ecological Systems Approach. 北海学園大学論集第 176 号, 93-114.

〔学会発表〕(計 5 件)

1. Hiroyuki Matsumoto (2019). Is EFL Reading Motivation Different from EFL Learning Motivation?, 2019 Hawaii International Conference on Education.

2. Hiroyuki Matsumoto (2017). Exploring the Features of Motivation in English as a Foreign Language Reading, 2017 Conference of the American Association for Applied Linguistics.

3. Hiroyuki Matsumoto (2017). Toward the Validity of Studying EFL Reading as an

Ecological System in Social Contexts, 15th International Pragmatics Conference.

4. Hiroyuki Matsumoto (2016). Examining the Causal Relationships Among Strategy Use, Motivation, and Beliefs in L2 Reading, Psychology of Language Learning Conference.

5. Hiroyuki Matsumoto (2016). Can Utilization of Lexical Units Facilitate EFL Reading Proficiency?, International Formulaic Language Research Network 2016 Conference.

〔その他〕

ホームページ等 researchmap 掲載

## 6 . 研究組織

(1)研究分担者 なし

(2)研究協力者 なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。